

山陰縣志政集







とらふるをばらうととちやて給ふ事ゆき芳ののち

簷梅

十三日

とらふるをばらうととちやて給ふ事ゆき芳ののち

門柳

十四日

とらふるをばらうととちやて給ふ事ゆき芳ののち

西馬知書

十五日

とらふるをばらうととちやて給ふ事ゆき芳ののち

二月始書

十六日

とらふるをばらうととちやて給ふ事ゆき芳ののち

五上書月

十七日

とらふるをばらうととちやて給ふ事ゆき芳ののち

東春書

十八日

とらふるをばらうととちやて給ふ事ゆき芳ののち

去日書

十九日

とらふるをばらうととちやて給ふ事ゆき芳ののち

乃元

廿日

とらふるをばらうととちやて給ふ事ゆき芳ののち

見月

廿一日

とらふるをばらうととちやて給ふ事ゆき芳ののち

既紀

廿二日



今日少くもわづねふゆて思ふ程とさるる也法之邪

朽瓦

廿三日

何れ好くもさうてさるる極死たるともさるる為りぬまふ

惜花

廿四日

心ゆくもさるるもさるるもさるるもさるるもさるるもさるる

三月三日

廿四日

行水ふさふさふさふさふさふさふさふさふさふさふさふさ

歎冬

廿五日

はれやうもやうもやうもやうもやうもやうもやうもやうも

松向友

廿七日

松のゆきもさるるもさるるもさるるもさるるもさるるもさるる

三月三日

廿八日

あつたふさふさふさふさふさふさふさふさふさふさふさ

及十首

卯死似月

廿九日

あつたふさふさふさふさふさふさふさふさふさふさふさ

待都云

朔日

あつたふさふさふさふさふさふさふさふさふさふさふさ

寝覚都云

二日

寝覚はく待りぬさるるもさるるもさるるもさるるもさるるも



六月晦

三

村雲小舟此宵ととらけりし時を五月のふたつとて

菴五月晦

四

四人たゞとてけし小築此宵ととらけりし時を五月のふたつとて

夏草露

五

起る花移しけり白露ととらけりし時を五月のふたつとて

里堂

六

舟小舟の舟ととらけりし時を五月のふたつとて

松本海

七

舟小舟の舟ととらけりし時を五月のふたつとて

遠夕立

八

降る夕立の夕立ととらけりし時を五月のふたつとて

樹陰納涼

九

樹陰の夕立ととらけりし時を五月のふたつとて

秋二十首

初秋風

十

初秋の風ととらけりし時を五月のふたつとて

初秋露

十一

初秋の露ととらけりし時を五月のふたつとて

七夕後物

十二

初秋







こころもさへもみすて清清風の秋

湖月

大なる

ふかき水もみすて清清風の秋

栲名御音風

大なる

更なる水もみすて清清風の秋

紅葉映日

大なる

紅葉映日と清清風の秋

紅葉映日

大なる

紅葉映日と清清風の秋

言枯露

大なる

言枯露と清清風の秋

惜九月

大なる

惜九月と清清風の秋

冬十首

初冬時句

大なる

初冬時句と清清風の秋

風前落葉

大なる

風前落葉と清清風の秋

庭前

大なる

庭前と清清風の秋



冬月

三〇

二ノ月ハフシケラぬの死をきく月のついでとせしむ

古屋敷

四〇

きつちのりてのいもれきまてしりてのわいぬるあは

囃子巻

四〇

月はらふらうふる波のあせに御きてしりらうれ

池水

四〇

風をいもせつはらうのれきまのいぬ水わにきり

き盤もき

四〇

落着しりしのけてきた盤もれとかいさうくもあは

油書

四〇

おはらうおはらうしつえいなる記もさうなれおき

歳言書

四〇

落着らるるあはしつえいなる記もさうなれおき

意二平首

あつ書

四〇

あつ書なるあはしつえいなる記もさうなれおき

あつ書

四〇

あつ書なるあはしつえいなる記もさうなれおき

あつ書

四〇







そのしるしをなするものありては  
其の本意を  
たすり

そのしるしをなするものありては  
其の本意を  
たすり

其の本意

たすり

そのしるしをなするものありては  
其の本意を  
たすり

たすり

そのしるしをなするものありては  
其の本意を  
たすり

其の本意

たすり

そのしるしをなするものありては  
其の本意を  
たすり

其の本意

たすり

そのしるしをなするものありては  
其の本意を  
たすり

其の本意

たすり

そのしるしをなするものありては  
其の本意を  
たすり

其の本意

たすり

そのしるしをなするものありては  
其の本意を  
たすり

難二千首

悦服易賞

二月一日

そのしるしをなするものありては  
其の本意を  
たすり

其の本意

たすり

そのしるしをなするものありては  
其の本意を  
たすり



石形松

三日

往代よりくさるる人新なる小垣の世のまゝ

石形浦

四日

玉葉のふりやのふもあはれいづれ海の初めいづれ

名取爲

五日

いづれもあはれ舟の海をきよむる海鳥のたぐ

野鳥

六日

あゝまゝあまきしあらし山と風あやまの海鳥

梅雨

七日

心風おきよとくこころえてきり白雲海のくち

浪手

八日

いづれ海鳥あまきしあらしあゝまゝあまきし

旅行

九日

いづれ海鳥あまきしあらしあゝまゝあまきし

旅宿

十日

あゝまゝあまきしあらしあゝまゝあまきし

旅泊

十一日

あゝまゝあまきしあらしあゝまゝあまきし

山あ路

十二日

あゝまゝあまきしあらしあゝまゝあまきし



山家集

十三

かみさくしほひやせきしるききしつらぬの奥と云て

田家集

十四

小田乃唐しゆらむ故の行ふ志をくさきそと云はれ

杜述怪

十五

うきよとてあてはくしむくちえぬ神身は高の松松

老後懐旧

十六

はるけ月日ふくくをたかひのしと云はれ

性中も夏

十七

河をくくしとれし雲はあふり今も事と云はれ

わが川あめと云くくあらうら幸くし流はつと云はれ

内宮遷宮遅く已經年序種々加下知

來廿七日可為遷宮也今日於神祇宮

神寶等拜見之

釈教

十九日

あつとに津ふんの可成も思とくて又は知はれ

詩百首和歌

文明元年九月九日始

春二十首

立春

九月九日

あつとに津ふんの可成も思とくて又は知はれ



山極

十日

ちよふ山極の松はとうなまらしくしてけりけりてしるる

海霧

十一日

わたりくはるる松のぼのぼのしるるちたなまらしく

子日

十二日

まじりたるまじり日にしはたわらしちりてちりる

あま草

十三日

そそきのほのほのそそきの松を記念おとちりて

初雪

十四日

ゆたも今春のちりるとちりては光りてしるる

津毒

十五日

わたりしつるのまらちりにちりてはちりて

あめ

十六日

月影のまらちりにちりてはちりてはちりて

片柳

十七日

立田川片名柳乃ちりてはちりてはちりて

まぬ

十八日

しるるまらちりにちりてはちりてはちりて

五月

十九日

しるるまらちりにちりてはちりてはちりて



春晴

廿日

ふて今かあふとさむしむしとわらふとて

帰序

廿日

あつまいぬるたけき娘とてあはれはたはらうとて

裁犯

廿日

とてくちんをわらふとてさうさうとて

既犯

廿日

とてけいふわらふとてさうさうとて

惜犯

廿日

とてけいふわらふとてさうさうとて

春駒

廿日

みさうにうらなふとてさうさうとて

款冬

あつまいぬるたけき娘とてあはれはたはらうとて

茶友

あつまいぬるたけき娘とてあはれはたはらうとて

首友

あつまいぬるたけき娘とてあはれはたはらうとて

友十五首

首友



〜〜〜の〜〜〜

〜〜〜の〜〜〜

更衣

卯辰の〜〜〜

郭云

喜ぶよとの〜〜〜

御機

わさ〜〜〜

早苗

〜〜〜の〜〜〜

沼苗

ちの

喜ぶよとの〜〜〜

物ぬ

ちの

清き〜〜〜

夕立

ちの

海雲の〜〜〜

夏草

ちの

色〜〜〜

夏月

十日



のちとて、弦をひきふ所、其の月をうらむ

鶯雀麦

十七日

とて、あつたさういふも、あつたさういふも、あつたさういふも、あつたさういふも

氷室

十一日

あつたさういふも、あつたさういふも、あつたさういふも、あつたさういふも

細涼

十一日

あつたさういふも、あつたさういふも、あつたさういふも、あつたさういふも

夏後

十一日

あつたさういふも、あつたさういふも、あつたさういふも、あつたさういふも

秋二平首

早秋

十一日

あつたさういふも、あつたさういふも、あつたさういふも、あつたさういふも

七夕

十一日

あつたさういふも、あつたさういふも、あつたさういふも、あつたさういふも

稲穂

十七日

あつたさういふも、あつたさういふも、あつたさういふも、あつたさういふも

籬萩

十一日

あつたさういふも、あつたさういふも、あつたさういふも、あつたさういふも

好秋

十九日

あつたさういふも、あつたさういふも、あつたさういふも、あつたさういふも



蛸尾 三千

ホリ

とけくん末の糸の初を記しつゝなほ花を先  
脱露 ホリ

夕風 ホリ

蛸尾

ホリ

様若り候ふし中つゝはなれりてしつゝ

葛風

ホリ

ふらふらと葉を落しけりてしつゝ

夕麻

ホリ

はらふしるふ秋を夕麻を落しけりてしつゝ

初尾

ホリ

このはなを落しけりてしつゝ

蛸尾

ホリ

養をまゐりてのつゝなほ花を落しけりてしつゝ

蛸尾

ホリ

そよよと流しけりてしつゝ

蛸尾

ホリ

やうにれりてしつゝ

湖月

ホリ

湖の月を落しけりてしつゝ



閏月

廿九

之月てんそふ乃お月もそは夜は

漢柔

十月 朔日

秋まの酒風さくあつもあつあつ

栲衣

二日

いづれもあつあつあつあつあつあつ

芙蓉

三日

あつあつあつあつあつあつあつあつ

雲錦

四日

冬十の首

初冬

初日

あつあつあつあつあつあつあつあつ

時雨

二日

あつあつあつあつあつあつあつあつ

落葉

三日

あつあつあつあつあつあつあつあつ

栲衣

四日

あつあつあつあつあつあつあつあつ

雲錦

五日

あつあつあつあつあつあつあつあつ

吹











思ふもあらじとてさしづめしむるはなほなほとて  
死生

あはれもあらじとてさしづめしむるはなほなほとて

福

10

あはれもあらじとてさしづめしむるはなほなほとて

絶

11

あはれもあらじとてさしづめしむるはなほなほとて

恨

12

あはれもあらじとてさしづめしむるはなほなほとて

舊

13

あはれもあらじとてさしづめしむるはなほなほとて

雜十五首

山家

あ

あはれもあらじとてさしづめしむるはなほなほとて

回

14

あはれもあらじとてさしづめしむるはなほなほとて

別

15

あはれもあらじとてさしづめしむるはなほなほとて

離別

16

あはれもあらじとてさしづめしむるはなほなほとて



蕪旅

九日

巨匠の筆を拝見す。其の筆致は、  
~~~~~~

海路

十日

自ら記す。其の筆致は、  
~~~~~~

習宿

十日

自ら記す。其の筆致は、  
~~~~~~

古上

十二日

交りて文地。其の筆致は、  
~~~~~~

覽全

舟中記す。其の筆致は、  
~~~~~~

述懐

十日

其の筆致は、  
~~~~~~

懐舊

十五日

其の筆致は、  
~~~~~~

義傷

十日

其の筆致は、  
~~~~~~

葉書

十日

其の筆致は、  
~~~~~~

瑤羅

十日

其の筆致は、  
~~~~~~



夜言

十九日

君を代に言ふはよも川を流るる流るる流るる

詠百首和歌 文明四年九月九日始る

去二十首

曉立春

こゝろはさうしははるのうららかに

溪館室

台川やうららかに花も又も春よさう

梅尔辰

ゆきもさうさうとふははるのうららかに

本林辰

ゆきもさうさうとふははるのうららかに

名軒寫

雪もさうさうとふははるのうららかに

名軒寫

雪もさうさうとふははるのうららかに

名軒寫

雪もさうさうとふははるのうららかに

名軒寫

雪もさうさうとふははるのうららかに











あしひたしつるぬまのちもさむきもなほいづれか  
物川

あしひたしつるぬまのちもさむきもなほいづれか  
あしひたしつるぬまのちもさむきもなほいづれか

菅廬橋

あしひたしつるぬまのちもさむきもなほいづれか

輪夕立

あしひたしつるぬまのちもさむきもなほいづれか

野雲

あしひたしつるぬまのちもさむきもなほいづれか

細涼

あしひたしつるぬまのちもさむきもなほいづれか

六月後

あしひたしつるぬまのちもさむきもなほいづれか

秋二十首

早詠

あしひたしつるぬまのちもさむきもなほいづれか

七夕歌

あしひたしつるぬまのちもさむきもなほいづれか

秋凡

あしひたしつるぬまのちもさむきもなほいづれか



籬萩

さあけらうまうにさしぬみしとし萩のこゝろをさき乃鹿  
の跡を

ふとむねはわらむさしぬみしとし萩のこゝろをさき乃鹿

田上原

しほつてさきよふまをわらうし萩のこゝろをさき乃鹿

和心原

さきとしさきよふまをわらうし萩のこゝろをさき乃鹿

原路

ふしつてさきよふまをわらうし萩のこゝろをさき乃鹿

萩虫

さきとしさきよふまをわらうし萩のこゝろをさき乃鹿

萩音

さきとしさきよふまをわらうし萩のこゝろをさき乃鹿

駒込

さきとしさきよふまをわらうし萩のこゝろをさき乃鹿

関月

さきとしさきよふまをわらうし萩のこゝろをさき乃鹿

井向月

さきとしさきよふまをわらうし萩のこゝろをさき乃鹿



海月

さしぬくしわらふもをききりゆめささのしきりし海月のあかり

吉三毛月

朽ちたる朝乃枝ももは地意と月を鏡とて照らす

波月

波はあやとら波ももしし廉ふは月乃もあや

栲衣

吹しほらぬのき葉乃珠凡小作ありし衣のり

物付ぬ

ころはけぬふしとよはぬもささるしあはれはるころれ

江紅葉

ふみ川ゆり紅葉乃てあやしくもあやしくもあやしくも

九月冬

かじりし紅葉もあやしくもあやしくもあやしくもあやしくも

冬十五首

初冬

あやしくもあやしくもあやしくもあやしくもあやしくもあやしくも

秋紅葉

山風もあやしくもあやしくもあやしくもあやしくもあやしくもあやしくも

庭露



日影とて庭の影をたぐひしや  
あはれなる花の影に  
あはれ

葉友

人まじりてはなれど  
あはれなる花の影に  
あはれ

筑音

山をふもしの嵐をよそへ  
あはれなる花の影に  
あはれ

杉音

まじりてはなれど  
あはれなる花の影に  
あはれ

中林音

あはれなる花の影に  
あはれなる花の影に  
あはれ

松音

後の花はなれど  
あはれなる花の影に  
あはれ

松を月

月を月松を月  
あはれなる花の影に  
あはれ

冬晩

あはれなる花の影に  
あはれなる花の影に  
あはれ

磯子島

あはれなる花の影に  
あはれなる花の影に  
あはれ

河水

あはれなる花の影に  
あはれなる花の影に  
あはれ

夜多松



わささしとちもりの夢は河にまはる科あうり

河水多

さうはつとつちもりの夢は河にまはる科あうり

夢多

さうはつとつちもりの夢は河にまはる科あうり

集二十首

下道多

さうはつとつちもりの夢は河にまはる科あうり

切多

さうはつとつちもりの夢は河にまはる科あうり

遠多

さうはつとつちもりの夢は河にまはる科あうり

夢多

さうはつとつちもりの夢は河にまはる科あうり

夢多

さうはつとつちもりの夢は河にまはる科あうり

夢多

さうはつとつちもりの夢は河にまはる科あうり

夢多

さうはつとつちもりの夢は河にまはる科あうり



別意

物思ひのこころをわらわすに似たりしはるる

負意

かこよもてまはれくちくるまきほれはふれはるる

今更

あてえたる者の別れにわらわすにたるとき其

後物

よきとあらはれしにわらわすにたるとき其

今更

あてえたる者の別れにわらわすにたるとき其

久

今更

白地

今更

恨

今更

行意

今更

行意

今更



笑、

我々を思ふしめりてぬきぬきと申すは

仍高

玉のこころをばらばらとてはらばらとて

変、

はらばらとてはらばらとてはらばらとて

雑十首

寄名雑

あまのりく芳のよきとてはらばらとて

寄枕雑

かろさちよむらばらばらとてはらばらとて

寄枕雑

はらばらとてはらばらとてはらばらとて

寄市

はらばらとてはらばらとてはらばらとて

寄市雑

はらばらとてはらばらとてはらばらとて

寄橋

はらばらとてはらばらとてはらばらとて

寄橋



多量乃人の旅じりうそえりふり方は方の鐘のむく

あはれむかひのけのあはれむかひのけ

昔昔、

あはれむかひのけのあはれむかひのけ

昔水、

あはれむかひのけのあはれむかひのけ

詠百首和歌文明十三年冬月日

春二十首

閑詠早去

あはれむかひのけのあはれむかひのけ

湖上朝霧

あはれむかひのけのあはれむかひのけ

庭南を樹

あはれむかひのけのあはれむかひのけ

霧中閑詠

あはれむかひのけのあはれむかひのけ

隣家竹影

あはれむかひのけのあはれむかひのけ

田舎の若菜











高橋家の夏

薫るよふらんしむぬまのらんかやむかよき新のらんを  
森立月夜

落中よりあけたる雲はたはたけらぬの露のわらぬらん  
野々草

事ぬ給る面はくしむる夕はぬらん  
洞窟を火

流は浪とらんれ谷乃岩はたけらぬらん  
行旅了之

やとゆらん夕之風を吹かすらん  
らん

秋二十首

初秋物風

物はえりしとわくしと吹つらん  
らん

同月七夕

夕にわくぬ物せふらん  
らん

習亭夕暮

わらぬれぬ風とくも  
らん

江島夜暮

海風と吹くを命と入る  
らん

山泉初居



わん何乃あきし海乃くし里お中拾交つてさしり  
海上行月

概はしこまほしきと海のこしりもあつし心さ  
句

松乃あ月

あつあみくしこしりまのまのまのあつあ  
句

涼乃あ月

うらな涼乃涼束てこしりたつてのまのまの月を可  
句

年落映月

みづ流りよ死わあしこしりもく色あまのあ月  
句

閑路皆月

床乃あ月

あしあしりあしりゆんちあまのあつあ  
句

田乃あ月

あつああしりあしりあしりあしりあしりあしり  
句

古乃あ月

あつああしりあしりあしりあしりあしりあしり  
句

秋風乃あ月

あつああしりあしりあしりあしりあしりあしり  
句

籠乃あ月

あつああしりあしりあしりあしりあしりあしり  
句



紅葉のあり

いづれもみちのりしと波のまじりて水も霞れ

山中の紅葉

いづれもみちのりしと波のまじりて水も霞れ

露庭の紅葉

いづれもみちのりしと波のまじりて水も霞れ

河色紅葉

いづれもみちのりしと波のまじりて水も霞れ

得惜言状

いづれもみちのりしと波のまじりて水も霞れ

冬十首

初冬時辰

いづれもみちのりしと波のまじりて水も霞れ

名漢唐集

いづれもみちのりしと波のまじりて水も霞れ

雪と月霞

いづれもみちのりしと波のまじりて水も霞れ

古寺初雪

いづれもみちのりしと波のまじりて水も霞れ

在雪賦







旅宿の巻

わが身をたもたせしむるに  
旅宿の巻

兼狀院

わが身をたもたせしむるに  
旅宿の巻

波狀

わが身をたもたせしむるに  
旅宿の巻

波狀

わが身をたもたせしむるに  
旅宿の巻

波狀

わが身をたもたせしむるに  
旅宿の巻

疑真の巻

わが身をたもたせしむるに  
疑真の巻

如車

わが身をたもたせしむるに  
如車の巻

波狀

わが身をたもたせしむるに  
波狀の巻

余中

わが身をたもたせしむるに  
余中の巻

後門

わが身をたもたせしむるに  
後門の巻



志行形恋

とこしゆくもさるる恋の地こそとてさうきく  
流恋形身

うらふれあふくはなほあはれし心は  
酒を流

物とあはれくはなほあはれし心は  
清人恋

いふまへにほふものかたはれし心は  
流恋

さうきくもさるる恋の地こそとてさうきく

互恨恋

はらふくもさるる恋の地こそとてさうきく

雑二十首

腕又寝覚

作らばとあはれし心はなほあはれし心は

流恋形身

いふまへにほふものかたはれし心は

白中歌并

あはれし心はなほあはれし心は

流恋形身



名の録乃昔々道法布也なるりも川の川風をゆ  
きよくす

秋の風をうらむおほくもさかたにたてし秋の月を  
よみ

くちの川に流るる水は  
河水流清

ちの川に流るる水は  
長秋の夜

極の川に流るる水は  
閑路の夜

伊予の川に流るる水は  
山菜夕嵐

伊予の川に流るる水は  
山菜夕嵐

伊予の川に流るる水は  
山菜夕嵐

伊予の川に流るる水は  
山菜夕嵐

伊予の川に流るる水は  
山菜夕嵐

旅宿東由







天地を履く時一袖代らるるに  
寄

花の散るをみるに  
朝雪

朝雪

水辺をけしゆくも雪の影の  
梅薫風

梅薫風

春のそよ風をみるに  
柳

柳

春のそよ風をみるに  
帯店

帯店

吉柳

春のそよ風をみるに  
春曉月

春曉月

春曉月

春のそよ風をみるに  
山花

山花

春のそよ風をみるに  
禁中花

禁中花

春のそよ風をみるに  
落花

落花

春のそよ風をみるに  
友

友







わいあつこらむあつこらむのこらむあつこらむ

荻

あつこらむあつこらむあつこらむあつこらむあつこらむ

あつこらむ

あつこらむあつこらむあつこらむあつこらむあつこらむ

あつこらむ

あつこらむあつこらむあつこらむあつこらむあつこらむ

あつこらむ

あつこらむあつこらむあつこらむあつこらむあつこらむ

あつこらむ

あつこらむあつこらむあつこらむあつこらむあつこらむ

あつこらむ

あつこらむあつこらむあつこらむあつこらむあつこらむ

あつこらむ

あつこらむあつこらむあつこらむあつこらむあつこらむ

あつこらむ

あつこらむあつこらむあつこらむあつこらむあつこらむ

あつこらむ

あつこらむあつこらむあつこらむあつこらむあつこらむ

あつこらむ



海もそよをそよぬとていづかしの雲にゆきあはれ

九月五

わも月もいづかしの雲にゆきあはれ

冬七首

特ぬ

あしきうたの秋の村のあはれいづかしの雲に

庭霜

はるのいづかしの雲にゆきあはれ

氷

風もいづかしの雲にゆきあはれ

河のあはれ

あはれいづかしの雲にゆきあはれ

雪

あはれいづかしの雲にゆきあはれ

炭竈

あはれいづかしの雲にゆきあはれ

庭の雪

あはれいづかしの雲にゆきあはれ

冬六首

冬七首



そしは乃侍したるにききしは  
あはれなる御心ぞ

初志

御心あはれなるにききしは  
あはれなる御心ぞ

初志

初志  
あはれなる御心ぞ

後志

あはれなる御心ぞ

増志

あはれなる御心ぞ

恨志

あはれなる御心ぞ

雜六首

名新酒

あはれなる御心ぞ

山家

あはれなる御心ぞ

様

あはれなる御心ぞ

車儀

あはれなる御心ぞ



夕

るるのこゝろいふ人ぬるるの暮れをたぬ物な  
既

みえぬく世はほろぬ信と風志のあつたつて七回

詠百首和歌

文明十七年九月九日始

春二十首

兼書三首

九月九日

折とつ乃折り教とつ今ふまぬ老れまふふり

山麓

十日

ゆふらん神し世とつこゝろのわたりにたふさるる乃集を

海産

十一日

和蘭乃京波らの末もこゝろを感えつるまてつり集

舊集寫

十二日

乞てしと又や旧集よむゆつゆつはまきとる乃書

込有業

十三日

落物とるもてし戸下とえのこゝろ集とつてつ人のほ水

松沙書

十四日

徳人集乃じよわしはやれ小松京れ書も村酒

危梅

十五日

やうらうら物とつてし白くつりぬるる高の雲風



野梅

十六日

かき布を種しとくへく孫とくを種のかくあきくあき

胡柳

十七日

作とくを種しとくへく孫とくを種のかくあきくあき

左のまゝ

十八日

とくを種しとくへく孫とくを種のかくあきくあき

五月

十九日

とくを種しとくへく孫とくを種のかくあきくあき

後瑞序

廿日

とくを種しとくへく孫とくを種のかくあきくあき

約考花

廿一日

とくを種しとくへく孫とくを種のかくあきくあき

約記

廿二日

とくを種しとくへく孫とくを種のかくあきくあき

見ん記

廿三日

とくを種しとくへく孫とくを種のかくあきくあき

約記

廿四日

とくを種しとくへく孫とくを種のかくあきくあき

約記

廿五日

とくを種しとくへく孫とくを種のかくあきくあき



夏十首

廿六日

まもつて祈るまもつて詠の文乃いして我里のよきと云ふ

池友

廿七日

あふつてふはまけふはけふしあらしを松のうらみ

言ひま

廿八日

むも乃文ふりんかたてむも乃文の言れ

夏十首

夏十首

廿九日

あふしむる面むのうらみ卯夜をふりむく古

採葵

卅日

あふの神をいふまもつていふまもつていふまもつて

松野

十月 朔日

郭公のけしきいふまもつていふまもつていふまもつて

実部

二日

さうのまもつていふまもつていふまもつていふまもつて

名部

三日

かたけくやけよじりいふまもつていふまもつていふまもつて

九月

四日

あふのまもつていふまもつていふまもつていふまもつて

田舎

五日











行集

廿五日

行集の一首よみよみあてはるるを

冬十首

廿六日

はらりしあなをみまわしむるを

谷路集

廿七日

むらりしあなをみまわしむるを

九月

廿八日

ゆらりしあなをみまわしむるを

冬十首

行路集

廿九日

村のあなをみまわしむるを

橋路集

青

初日

らむらりしあなをみまわしむるを

寒草霜

二日

はらりしあなをみまわしむるを

湖水

三日

あなをみまわしむるを

冬月

四日

らむらりしあなをみまわしむるを

湊の鳥

五日



風をよみて岩波をよみて水をよみて山をよみて

朝書 六日

心ゆく物たわぶれし神はひびきしうらたけの音

夕書 七日

群てゆく鳥をよみて水をよみて山をよみて

書 八日

とらふ鳥をよみて水をよみて山をよみて

書 九日

鳥をよみて水をよみて山をよみて

惠二十首

鳥の書 十日

鳥をよみて水をよみて山をよみて

鳥の書 十日

鳥の書 十一日

鳥をよみて水をよみて山をよみて

鳥の書 十一日

鳥をよみて水をよみて山をよみて

鳥の書 十日

鳥をよみて水をよみて山をよみて



昔江原

十あり

ひらひらとけりてあつたのひらひらとけりてあつた

昔江原

十六日

昔河原

十七日

あつたのひらひらとけりてあつたのひらひらとけりてあつた

昔江原

十八日

あつたのひらひらとけりてあつたのひらひらとけりてあつた

昔江原

十九日

あつたのひらひらとけりてあつたのひらひらとけりてあつた

昔江原

廿日

あつたのひらひらとけりてあつたのひらひらとけりてあつた

昔江原

廿一日

あつたのひらひらとけりてあつたのひらひらとけりてあつた

昔江原

廿二日

あつたのひらひらとけりてあつたのひらひらとけりてあつた

昔江原

廿三日

あつたのひらひらとけりてあつたのひらひらとけりてあつた

昔江原

廿四日

あつたのひらひらとけりてあつたのひらひらとけりてあつた



昔の海意

廿六日

しんりは乃席の海意の趣くしゆらふらふらふらふら

昔の海、

廿六日

なめしとくまらぬの海ひししししししししししし

昔の海

廿七日

思ふ人の望みはわが心からわが心からわが心から

昔の海、

廿八日

人かきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

昔の海、

廿九日

浪の音かゝの物にさるるしんりしんりしんりしんり

雜二首

曉寢覺

廿日

鐘しんりしんりしんりしんりしんりしんりしんり

昔の海、

十一日

廿一日

朽ぬ只さつしんりしんりしんりしんりしんりしんり

雜竹

廿二日

わらぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

路名

廿三日

浪の音かゝしんりしんりしんりしんりしんりしんり

葦間露

廿四日



ら風をさらし強皮の葉をひらきかきとる  
霧中さ日 五日

古くはくまねくらのくまねくまねくまねく  
霧中懐胎 六日

月もさすともくまねくたてくまねく  
霧中懐胎 七日

はくまねくくまねくくまねくくまねく  
海舌眺る 八日

くまねくくまねくのくまねくくまねく  
霧中懐胎 九日

かひゆるのくまねくくまねくくまねく  
奇老懐田 十日

くまねくくまねくのくまねくくまねく  
奇世懐田 十日

かひゆるのくまねくくまねくくまねく  
奇情懐田 十二日

かひゆるのくまねくくまねくくまねく  
奇涙 十三日

かひゆるのくまねくくまねくくまねく  
奇涙 十三日

奇涙 十三日



海へおのりて流れてはしる雲のふかき河のたもと

昔掛神紙 十五日

君ちらのみ乃ちらもまことと云ふ家の柳さくはつらみ

昔掛神紙 十六日

節下神さゆ執とら流るるわのりよのあなをくしゆゆらん

昔水穀教 十七日

かれはまゝあまにやうふまはるるのこの水さる

昔灯穀教 十八日

七束乃尾らのとくまゝしゆらるるを浪のた

祝言 十九日

君ちたのりぬのちゆとくしゆらるるあぢのゆはらふか  
らん



110X
595
1